

環境のために

地域および地球規模の環境保全は、シューズ、ゴム、プラスチック製品といった化学原材料による製品の製造を中心に事業展開するアキレスにとって、極めて重要な使命です。当社は事業活動が環境と深く関わっていることを認識し、その事業活動の中で環境方針、環境目的・目標を定めて、環境負荷低減につながる生産工程および製品づくりに努め、持続可能な社会の発展に貢献します。

※ P.7～12で報告する数値は、ISO-14001認証取得工場の集計です

環境マネジメントシステム

環境への考え方とマネジメントシステム

アキレスグループ環境方針

アキレスグループは、「社会との共生」＝「顧客起点」の企業理念のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を続けることを基本に、シューズ、ゴム、プラスチック製品の製造、販売を主体に事業活動を推進しています。

環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動の必須の要件として、環境負荷の低減に主体的に活動するとともに、新たな価値を創り続けることで、豊かで快適な社会づくりに貢献し、高い信頼を得る企業を目指します。

1. 事業活動による環境への影響を的確に把握し、環境目的・目標を定め、その実現を図ります。
2. 環境監査等により定期的に環境管理システムを見直し、継続的改善を図るとともに、環境汚染の予防を徹底します。
3. 環境に関係する法令・条例・協定および会社方針・規則等を遵守します。
4. 事業活動を通じて、環境配慮型の商品開発、地球温暖化防止と省エネルギー、3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進を行い、健全な環境の維持・向上に努めます。
5. 事業活動が環境に与える影響を全員が認識し、適切な行動が取れるよう教育・社内広報活動に努め、環境保全への意識向上を図ります。

ISO-14001 への取り組み

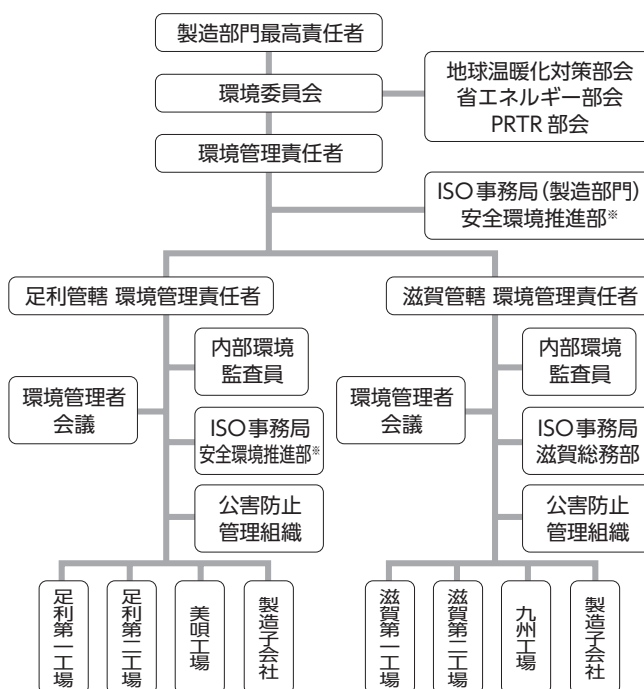
地球環境保全のため、そしてアキレスグループの体質強化のため、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO-14001をツールとして活用し、「アキレスグループ環境方針」に基づき環境側面を抽出・特定、目的・目標を設定し、継続的に環境改善活動に取り組んでいます。2015年度は5月19～21日の日程で、第5回更新審査が日本化学キューエイ(株)により行われました。

「改善の機会」1件の指摘事項があったものの、システムは維持されているとの評価でした。指摘事項については水平展開を図り、環境管理活動に反映させてレベルアップを進めました。

●ISO-14001：2004認証取得事業場 JCQA-E-0160

足利第一工場	2001年9月拡大取得
足利第二工場	2000年7月認証取得
滋賀第一工場	2002年9月拡大取得
滋賀第二工場	2002年9月拡大取得
美唄工場	2002年9月拡大取得
九州工場	2002年9月拡大取得
アキレスマリン(株)	2001年9月拡大取得
アキレスウエルダー(株)	2001年9月拡大取得
関東アキレスエアロン(株)	2001年9月拡大取得
大阪アキレスエアロン(株) 滋賀営業所	2002年9月拡大取得
北海道アキレスエアロン(株)	2002年9月拡大取得

環境管理推進組織



※2016年4月1日に、環境安全推進部から改名しました

2015 年度活動結果概要・2016 年度以降目標

項目	2015 年度目標 (中長期目標を含む)	2015 年度実績	評価	2016 年度以降目標	掲載ページ
地球温暖化防止と省エネルギーの推進	●温室効果ガス排出量を2010年度に対し、2015年度までに5%削減(2020年度までに10%削減)	●温室効果ガス排出量は、2010年度比10%削減し目標を達成しました ※2010年度排出係数採用	○	●温室効果ガス排出量を2010年度に対し、2016年度までに6%削減(2020年度までに10%削減)	P.9~10
	●エネルギー原単位を前年度比1%削減	●エネルギー原単位は、前年度比0.3%削減しましたが、目標値に達しませんでした	×	●エネルギー原単位を前年度比1%削減	
3R活動による完全ゼロエミッション	●3R活動推進を基本に、廃棄物の排出量を2010年度に対し、2015年度までに年10%削減(2020年度までに20%削減)	●廃棄物排出量は、生産構成の変化もあり、2010年度比13%増加し目標未達成となりました	×	●3R活動推進を基本に、廃棄物の排出量を2010年度に対し、2016年度までに年12%削減(2020年度までに20%削減)	P.11
	●完全ゼロエミッション(最終処分率0.1%未満)を2020年度までに達成	●最終処分率は、0.05%となり目標を達成しました	○	●完全ゼロエミッション(最終処分率0.1%未満)を2020年度までに達成	
環境負荷物質の大気汚染防止	●環境負荷物質(DMF、ジクロロメタン、トルエン、MEK、酢酸エチル)の大気排出量を2010年度に対し、2015年度までに15%削減(2020年度までに30%削減)	●環境負荷物質の大気排出量は、2010年度比16%削減し目標を達成しました	○	●環境負荷物質(DMF、ジクロロメタン、トルエン、MEK、酢酸エチル)の大気排出量を2010年度に対し、2016年度までに18%削減(2020年度までに30%削減)	P.11~12
環境管理(廃棄物削減、省エネなど)の改善につながる業務の効率化と環境配慮型の商品開発	●仕損費率削減(目標:対前年度実績20%削減)	●仕損率は、前年度比で削減はしましたが、目標未達成となりました	×	●仕損費率削減(目標:対前年度実績10%削減)	P.13~14
	●環境配慮率*の低減(目標:対前年実績以下) ※(エネルギー使用料+廃棄物処理費)÷生産金額×100	●2015年度から環境管理の指標として新たに設定した環境配慮率は、前年度比以下の目標を達成しました	○	●環境配慮率*の低減(目標:対前年実績以下)	
	●環境負荷を考慮した商品開発・研究開発の推進・上市	●生分解性フィルム、ノンハロゲンシート等環境配慮型製品の販売目標を達成しました	○	●環境負荷を考慮した商品開発・研究開発の推進・上市	
老朽化対策・工場再編に伴う環境設備の改善	—	—	—	●環境リスクの特定と対策立案(2016年度からの新たな目標)	—

環境事故などに対する是正処置

2015年度は5件の外部苦情があり、住民および行政への対応を行いました。また構内において小規模な発煙・発火事故、原材料・油膜の流出事故が発生しましたが、外部に影響を与えることなく対処しました。その後の原因追及・恒久対策について検討・実施し、設備面、管理面の両面において是正を行いました。また2015年度の各事業場の水質、大気および騒音の実績値は、全て基準値内であり問題はありませんでした。

意識啓蒙活動

環境保全活動は、従業員一人ひとりの意識と行動がなければ実施できません。

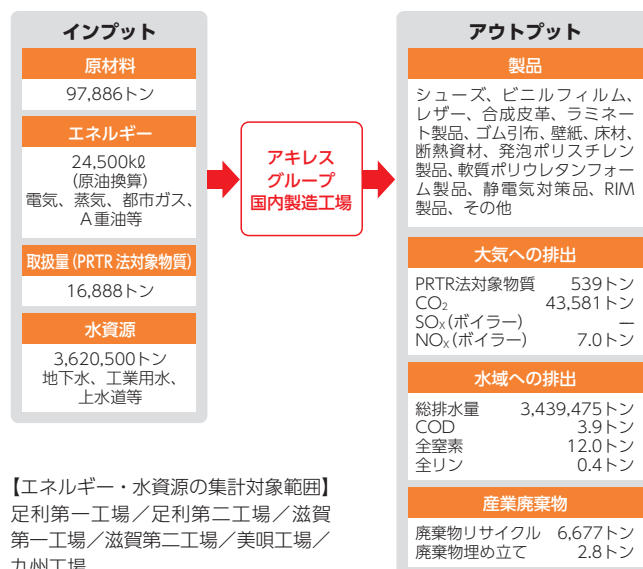
当社では、環境意識向上のため、製造部門従業員全員に当社の環境方針などを記した「環境カード」を配布し、新入社員研修、階層別研修などの社内研修において環境保全活動の重要性を周知しています。

また専門知識の必要な部署においては、さらなる環境意識と知識レベル向上に努め、専門知識資格取得にも取り組んでいます。

環境負荷の全体像

当社では事業活動に伴う物質・エネルギーのフローを定量的に把握し、会社の持続的発展に向けて、事業活動での環境負荷の低減、資源の有効活用に努めています。下記に、アキレスグループ国内製造工場の環境負荷の全体像を示します。

●マテリアルバランス



生物多様性への取り組み

生物多様性についての基本的な考え方

当社では、人間社会が生態系から恩恵を受ける一方で、大きな負荷を掛けていることを認識し、生物多様性の保全に貢献する取り組みを推進しています。

日光杉並木オーナー制度

日光杉並木は、およそ370年前に植えられた杉の巨木が連なる壮大な街道です。三つの街道のうちの一つである例幣使街道が足利市を通っていることもあり、当社とも深い関わりがあります。当社は、近年の周辺環境の悪化から杉並木を保護するための「日光杉並木オーナー制度」に賛同し、保全に協力しています。



日光杉並木

水資源の保全

当社では、毎月排水の自主測定を実施し、使用後の排水を環境影響のない状態で河川へ排出しています。なお、足利第二工場、滋賀第一工場、中国昆山工場では、工業用水の一部を循環使用しています。

「水質事故被害拡大防止訓練」へ参加

当社では滋賀県ならびに湖南・甲賀環境協会などが万が一の事故発生を想定して行っている「水質事故被害拡大防止訓練」に積極的に参加し、琵琶湖を含む周辺の環境保全の重要性を再認識しています。2015年9月29日に行われた訓練は、協会会員・県・市環境行政など総勢147人が参加する、大規模なものとなりました。



滋賀県でのオイルフェンスによる油のせき止め訓練

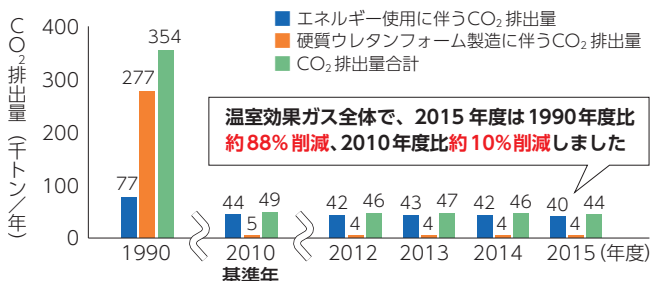
地球温暖化対策

温室効果ガス排出量推移

当社が排出する温室効果ガスとしては、エネルギー使用（燃料、電気など）に伴う二酸化炭素排出と、硬質ウレタンフォーム製造に伴う二酸化炭素排出（フロン系をCO₂に換算したもの）が主体です。

当社は現在までに継続して、積極的な環境設備投資によるエネルギー使用量の削減と、ノンフロン化への設備切り替えを進めました。この結果、温室効果ガス排出量は前年度比約4%減少し、1990年度比約88%（2010年度比約10%）削減することができ、目標を達成しました。今後は、さらなる温室効果ガス排出量の削減を推進していきます。

●温室効果ガス（CO₂）排出量の年度別推移



※エネルギー使用に伴うCO₂排出量は、事業活動に関わるエネルギー（燃料、電気など）に伴い発生するCO₂です。またCO₂排出量は、地球温暖化対策推進法（改正温対法：2006年4月施行）に基づく算出方法・排出係数一覧から算出したものです。なお東日本大震災以降、原発停止により天然ガス（火力発電）使用が増え、電気事業者の排出係数が大幅に大きくなったことから、2010年度以降は2010年度の排出係数で算出しています

※硬質ウレタンフォーム製造に伴うCO₂排出量は、原液製造時および発泡時に漏洩するフロン系をCO₂換算したものです。またフロン系の地球温暖化係数（CO₂換算係数）は、IPCCの3次レポートから準用し、自主的に算出したものです

【対象範囲】足利第一工場／足利第二工場／滋賀第一工場／滋賀第二工場／美根工場／九州工場／アキレスマリン（株）／アキレスウエルダー（株）

物流の環境保全活動

二酸化炭素削減活動の取り組み

2015年度の取り組みとして、モーダルシフトの拡大展開、および積載率・大型車利用率の向上を推進しました。また輸送の効率化とコスト低減を目的として、滋賀工場と連携して関東⇄関西の輸送車輛の有効活用を推進し、継続実施中です。



鉄道輸送用のコンテナへの積み込み

二酸化炭素排出量実績

上記の取り組みの結果、2015年度は、前年度に対し輸送トンキロ^{※1}が1.1%減少したこと、およびモーダルシフト率^{※2}が向上したことなどにより、CO₂排出量^{※3}が3.1%減となりました。

※1 輸送トンキロ＝貨物重量「トン」×輸送距離「キロメートル」

※2 貨物輸送をトラックから鉄道や船に変えること。一度に大量の貨物を輸送することができ、CO₂排出量を抑える効果が期待されています

※3 CO₂排出量（t-CO₂）＝エネルギー使用量（GJ）×排出係数（経済産業省より）

●二酸化炭素排出量・モーダルシフト率

項目(単位)	2014年度	2015年度	前年度比(差)
輸送トンキロ (千トンキロ)	74,421	73,570	98.9%
発生するCO ₂ の 排出量 (t-CO ₂)	10,161	9,847	96.9%
モーダルシフト率	15.3%	16.8%	1.5ポイント向上